

生産空間を守る、道の駅を活用した 物流効率化に向けた取組について

～道の駅トラック時刻表を活用して～

**令和元年11月28日
北海道開発局**

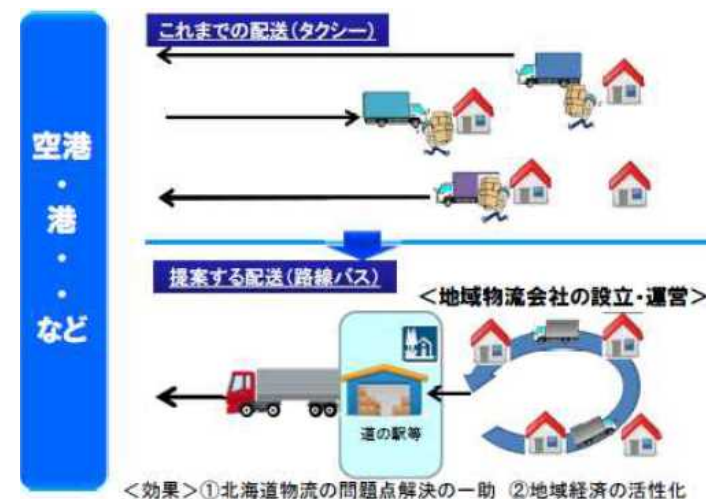
生産空間の現状

- ・農村・漁村エリアを含む地方部は、広域エリアに散在するため、**中心市街地まで遠く、公共交通、教育、医療、買い物など、人口定着に不利な環境。**
- ・人口減少と高齢化の急速な進展に伴い、長距離トラックドライバー不足や積載率の低下、長距離輸送規制の厳格化、貨物の季節波動に起因する片荷輸送等の要因により、地域の生産活動を支える物流の維持が困難な状況

取組の目的

北海道総合開発計画では、北海道の強みである「食」と「観光」を戦略的産業とし、これらの強みを提供する場を「生産空間」と位置付けるが、生産空間の役割を果たし続けるためには、そこに住み続けられる環境の維持が必要

**市街地や圏域中心都市への物流の確保、
輸送効率化を目的とし、道の駅等の
道路ストックを活用することを検討**



生産空間を維持するための道の駅の活用について

2

【平成30年度の取組】

- トラック運行状況、積載物の状況、積載率からトラックの空きスペースを利用した混在輸送の可能性を確認し、『道の駅トラック時刻表』のプロトタイプを作成
- 道北地域の「道の駅」特産品の相互輸送を試行し、実装に向けた課題抽出

▼道の駅トラック時刻表（プロトタイプ）

稚内～旭川間の主な運送会社へのアンケート調査を実施し作成

事業者	積積量	ドライ・冷蔵	スペース	上下	起点	終点	わっかない	ながわ	おといね	びふか	もち米の産地	給本の産地	あさひかわ	さるふつ公園	ピンネシリ	マリーナ
物流事業者	2.75t	常温	80%	下	旭川	稚内				7:34						
	4t	常温	40%	下	名寄	稚内		9:30		8:30						
	18t	常温	20%	上	稚内	旭川				9:20						
	18t	常温	50%	下	旭川	稚内		3:00								
	5.4t	常温	5%	上	枝幸	旭川				9:30						
	5.4t	常温	50%	下	旭川	枝幸				5:30						
	18t	常温	90%	下	札幌	稚内				12:40						
	2t	常温	100%	下	名寄	美深				14:29						
	2.9t	常温	30%	下	旭川	美深				14:38						
	4t	常温	10%	上	稚内	旭川				7:50						
	4t	常温	80%	下	旭川	稚内		2:00	1:00							
	4t	常温	80%	下	名寄	枝幸				8:15						
	5.4t	常温	5%	上	枝幸	旭川				9:00						
	5.4t	常温	60%	下	旭川	枝幸				5:00						
	4t	常温	70%	下	旭川	稚内				9:10						
	2.2t	冷蔵	90%	下	名寄	稚内		12:00		10:16						
	2t	冷蔵	70%	下	稚内	旭川		8:45		10:15						
	2t	冷蔵	0%	下	旭川	稚内		3:20								
	2t	冷蔵・冷凍	60%	上	稚内	旭川				12:10					9:00	
	2t	冷蔵・冷凍	0%	下	旭川	稚内				12:33						
	18t	冷蔵	80%	上	稚内	旭川										
	18t	冷蔵・冷凍	不明	下	旭川	稚内		9:00								
	4t	常温	50%	下	枝幸	名寄				14:00						
	6.9t	常温	40%	上	稚内	旭川				14:20						
	6.9t	常温	30%	下	旭川	稚内										
	2t	冷蔵	70%	上	稚内	旭川			7:00	7:30						
	2t	冷蔵	0%	下	旭川	稚内			4:00							
	2t	冷蔵	70%	上	稚内	旭川		5:00		7:40						
	2t	冷蔵	不明	下	旭川	稚内		0:00								
	5.4t	常温	5%	上	枝幸	旭川				8:50						
	5.4t	常温	60%	下	旭川	枝幸				4:30						

▼道の駅トラック時刻表を活用した「道の駅」特産品の相互輸送の試行



空荷運送車両はあくまでチャーター便ではないため、道の駅等への立ち寄りによる遅れが致命的。**積み込みまでの時間をどれだけ短くできるかが課題。**

道の駅に安全に荷物の一時保管ができるストックポイントがない。地域ニーズが高い生鮮食品やスイーツ等を扱うためには、**冷蔵も可能なストックポイントの整備が必要。**

特産品の相互輸送の試行を行った物流業者ヒアリングより



＜今後に向けた対応策(案)＞

①積み込みまでの時間短縮

⇒ トラックが駐車可能なストックポイントの整備と小型フォークリフトの活用

②冷蔵も可能なストックポイントの整備

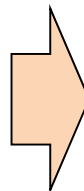
⇒ CRBの活用と電源の確保

平成30年度

道の駅の活用調査から得られた『課題』

①積み込みまでの時間短縮

②冷蔵も可能なストックポイントの整備



トラックに積み込める小型フォークリフトの活用による積込時間の短縮と労働負荷の軽減



ストックポイントにおけるCRB（コールド・ロール・ボックス）の活用による冷蔵品の保管

生産空間を維持するための道の駅の活用について

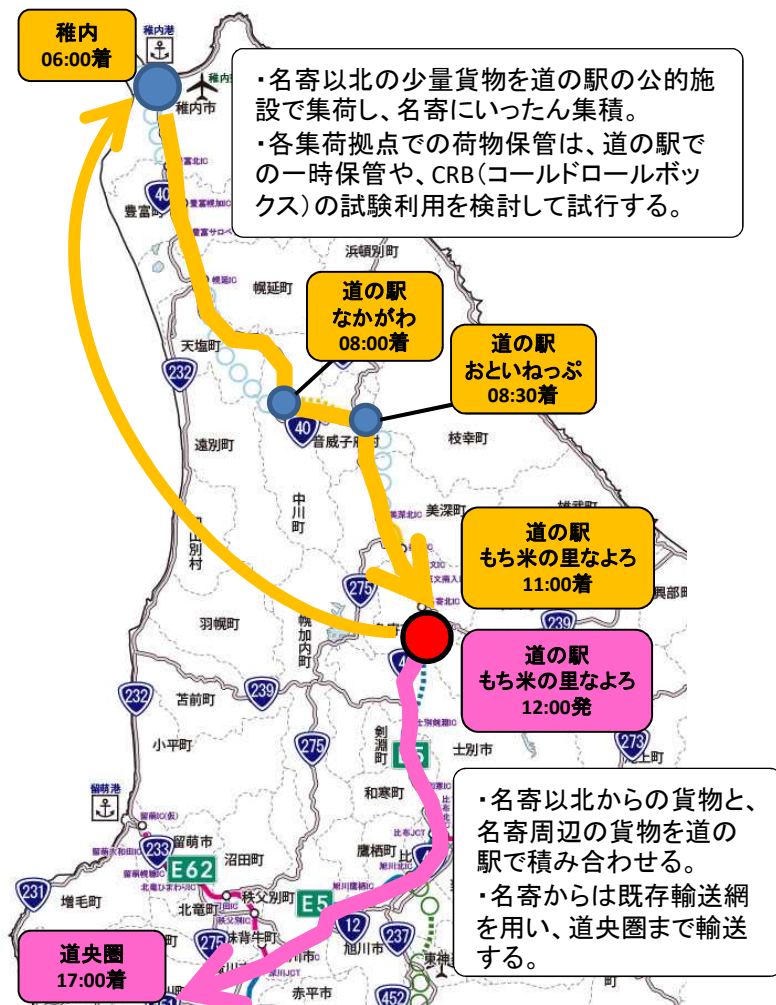
3

【令和元年度の取組】

※前年度の試行結果で抽出された課題に対する対応も踏まえ実施

- 『道の駅トラック時刻表』を活用し、名寄以北の共同配送の試行を実施
- 道の駅「もち米の里なよろ」を物流拠点と位置づけ、道北から道央圏までの輸送について試行を実施

◆輸送ルート・スケジュール案



◆今後の作業

・道の駅等との調整（荷捌き場所の提供、CRB電源確保等）	道の駅（名寄、中川、音威子府）
・運送事業者との調整	道北地域内、名寄～道央
・荷主との調整	輸送品目

◆関係機関、役割分担

北海道開発局旭川開発建設部	全体調整
道北ロジスティックス(株)	荷主、運送事業者との調整
北海道物流開発(株)	実験に必要な機材の提供（CRB、フォークリフト等）
道の駅管理者	荷捌き場所の提供、CBR電源確保等
その他、荷主、物流事業者等	

◆今後のスケジュール

- ・実験計画（案）の検討（～11月末）
- ・道の駅管理者、荷主、物流事業者等との調整（～12月末）
- ・実験準備（～1月末）
- ・実験実施（2月 複数回の試験輸送を予定）
- ・結果とりまとめ（3月）